

## サロベツお宝鑑定団(農業と開拓の歴史編)報告会が開催されました

### サロベツの開拓と豊富の魅力を発表!

平成16年2月11日(水)、豊富町民センターにおいて『サロベツお宝鑑定団(農業と開拓の歴史編)報告会』が「鑑定団活動報告」と「今後に向けての提案」の2部構成で開催されました。当日はサロベツお宝鑑定団の団員をはじめ、活動に協力してくださった地域のお年寄りなど70人程の参加がありました。

「鑑定団活動報告」では、活動を通じて収集した『サロベツ湿原の開拓の歴史』について、豊富町の開拓発祥の地である兜沼地区と庄内地区の現地取材の模様をビデオで上映し、その後、インタビュー形式により鑑定団員からの感想、協力してくださったお年寄りから開拓当時の生活の様子や想い出話などを聞いて、最後に鑑定団員である豊富高校郷土研究部員が「豊富の魅力」と「サロベツお宝鑑定団の活動に参加した思い」を詩にまとめて、場内“感動”で幕を閉じました。

後半の「今後に向けての提案」には、北海道遺産構想推進協議会会長の辻井達一氏から「北海道遺産の取り組みと地域性」、NPO法人当別エコロジカルコミュニティー理事長の山本幹彦氏から「農村地域における環境学習」と題した講話があり、この中で地域の活性化推進の提案と「サロベツお宝鑑定団」の今後の活動に対する提案もなされ、報告会は成功裡に終了しました。

### ☆サロベツお宝鑑定団の活動で発掘したサロベツの開拓に関する“お宝”

- 兜沼地区 ①豊富町最初の入植者梅村庄次郎邸(S9年建設)  
②馬のかんじき、魚取り用のビンドウ、  
手製の臼(うす)等  
③お年寄りの方からの話  
(玉石湯たんぽ、武蔵団体草壁の家、  
音吉じっちゃんなどの話)

梅村邸のお  
宝資料



- 庄内地区 ①日本一の牛がいる酪農家  
②火山灰ブロックの家、  
シベリア方式の家  
③開拓の資料(庄内小中学校)  
④庄内釜(庄内小中学校)



△兜沼地区的取材の模様



△庄内地区的取材の模様



△お宝鑑定団報告会の状況

### サロベツお宝鑑定団の今後について

お宝鑑定団の本年度の活動も終盤になり、今回の活動の中間取りまとめとして小冊子を作成することになりました。

小冊子には今回の活動を通じて得た「サロベツの開拓の歴史」を豊富町民の皆様に分かりやすくお届けすることを目標としており、この活動を糧として未来の地域づくりを考えるきっかけとなることを期待しております。

また、小冊子の内容は、小さい子供からお年寄りまでご理解して頂ける内容とすることとし、作成した小冊子は町内の学校(小・中・高)に配布する予定であり、環境省で建設を予定しているビジターセンターにスペースを頂き展示、配布させて頂くことも考えております。

なお、小冊子の完成は4月を予定しており、完成次第、配布していきたいと思います。

3号  
2004.  
3.22

発行元

サロベツ再生促進協議会  
事務局 豊富町農政課  
TEL 0162-82-1001

環境省自然環境局 西北海道地区自然保護事務所  
北海道開発局 槿内自然保護官事務所  
農業水産部農業調査課  
稚内開発建設部農業開発課

◆上記に関する問合せはこちらへ◆

**豊富町役場 農政課**

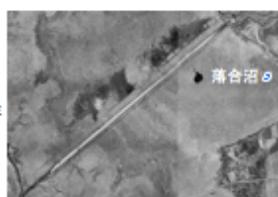
〒098-4110  
天塩郡豊富町大通6丁目  
TEL(0162) 82-1001  
FAX(0162) 82-2806



# サロベツ湿原のかかえる課

## 放水路及び農地隣接部付近の乾燥

- 放水路沿いにヨシ等が約 50ha 侵入。
- 高層湿原が乾燥して植生が変化（図中、小豆色が大きく減。）。



1964年

2000年

航空写真

植生区分図

この辺の高層  
湿原が大きく  
減っています。

乾燥して中間沼原  
植生に変化。

農地化

土砂堆積地にヨシ、  
イリノギリヤスが侵入。

サロベツ湿原では、サロベツの農地と同様に様々な問題がまき起こっています。多くは地下水位の低下によるものと考えられます。地下水位の低下をもたらした「排水」は自然発生的なものもあり、また、農地開発や道路整備、河川改修などの開発によって引き起こされている可能性の高いものもあります。

今回は、自然環境の面から、どのような問題が生じている

## ササ生育域の拡大

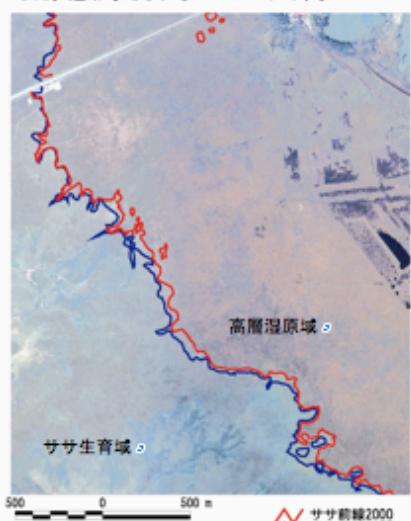
- 最近 23 年間で約 15ha 拡大。



1977-2000 年ササ拡大域

## ササ前線の進行

- 最近 23 年間で 20~50m 程度ササ前線が進行しました。通常考えられないスピードです。

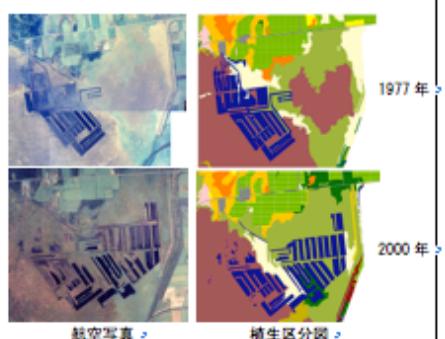


500 0 500 m

ササ前線2000  
ササ前線1977

## 泥炭探掘による高層湿原の減少

- 1969 年から 150ha が探掘で減少。

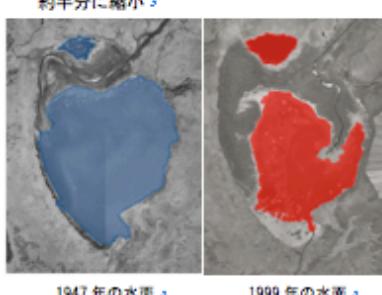


1977年

2000年

## ペンケ沼の埋塞

- 上流からの土砂流入により水面が、約半分に縮小。



1947年の水面

1999年の水面

← 植生図の凡例で  
す。高層湿原植生がど  
んと減っており、サ  
サがどんどん増えてい  
ます。

植生区分図凡例
高層湿原地帯 (カツラギサイボミズゴケ群落)
中間沼原地帯 (ヌマガヤ群落)
低層沼原地帯 (ヨシイワゴリセス群落)
湿原植生くササ混生タイプ
ササ高茎群落
ミズナラ群落
ヤナギ群落
ハンノキ群落
トドマツ群落
牧草地
畠園
人工地
住宅地・道路
開放水域

当面の事業予定地

## &lt;シリーズ特集&gt;

## ”湿原と農業の共生を目指す”サロベツに適した農業基盤整備を考える

【第2報】～沈む泥炭農地を救うためには～

## ◆第2報のキーワードは「水を操作する」です◆

## &lt;なぜ泥炭農地は沈むのか?&gt;

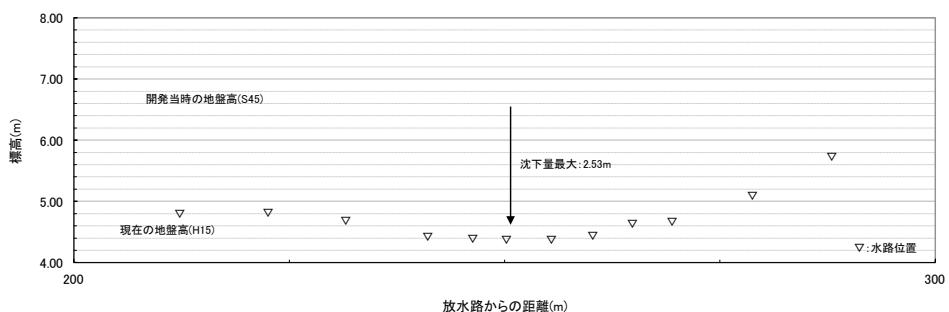
泥炭地に拓けた農地は、もともと水分と植物の遺体によって構成される泥炭が、明渠排水等による排水の促進によって地下水位が低下していくことにより、泥炭中の水分が抜けることによる堆積の縮小、また泥炭層内に酸素が供給されることによる腐植分解が起こり沈下するものと考えられます。下図は、サロベツ放水路付近において原野を農地として造成した箇所の地盤高の変化をグラフにしたものですが、約30年間で2.5m程度の沈下が生じております。

また、沈下した泥炭農地は、地盤高が低下することで過湿の状態となり、牧草の生育障害や農作業の能率低下等の支障が生じることとなり、その対策として「暗渠」や「排水路」を施す…ことの繰り返しが必要でした。

## ★北海道開発局から情報発信!!

牧草畠の被害状況等を把握するための調査や整備手法の検討などの情報を『サロベツ再生通信』の誌面から発信させて頂きますので、ご意見、ご質問等をお聞かせ下されば幸いです。

地盤沈下状況図



## &lt;泥炭農地の沈下を抑えるためには!&gt;

泥炭農地の沈下するメカニズムを踏まえると、とにかく土壌中の水分を排水させないことが重要となります。

しかし、水分が多くなると今度は牧草の生育障害や農作業に支障を来す可能性が高くなります。

そこで、當農作業に支障が出ない時期は地下水位を低下させないような仕組みとして、排水路に「堰」(※右図の排水調整堰を指す)を設けてみてはどうでしょうか?

この「堰」は、秋及び春の操作により、排水路や暗渠から流れてくる水を堰止めて貯留し、排水路の水位を高く維持することで地下水位の上昇・保持する構造とします。

特に冬期間は、農地の上に多量の雪が堆積され荷重が掛かり、より水分が押し出されやすい状況となってしまい、沈下に拍車が掛かってしまいます。

しかし、排水路や暗渠から水が流れにくい状況を創造できれば、泥炭として維持するために必要な水分までもが抜けにくくなり、沈下を抑制することに繋がるのではないかと考えられます。

泥炭地に造成された牧草畠は外的要因によって沈下してしまうことは常であり、持続的に牧草畠を利用していくためには、若干の手間と自然環境(泥炭であるということ)に適した利用をしていくことが重要だと考えております。



左の写真は、平成15年11月から上サロベツの公共草地において排水調整堰を設置し、その操作性等の維持管理に係る実証試験を行っている状況写真です。排水調整堰の設置による泥炭農地の沈下効果については、調査結果がまとまり次第、本通信等を活用してお知らせします。

※この記事に関する問い合わせ先  
稚内開発建設部農業開発課  
電話 0162-33-1000(代表)

## サロベツワークショップを開催しました！！

### 標語を実現するための活動を考えよう

平成16年1月14日（水）、14:00より、JA豊富町2階会議室において、サロベツ自然再生事業を通じてサロベツ地域の将来について話し合う第3回目のワークショップを行いました。2つの班に分かれて、第2回ワークショップで作った紙芝居のようなサロベツにするために、必要な活動ややってみたい活動を考えました。

#### 1、2班の活動案（抜粋）

- ・古里を俳句、短歌で表現する。・民話の里めぐり・振り起こし
- ・酪農家見学と交流会
- ・バードウォッチング 等

#### 3班の活動案

- ・上空からヘリコプターで原野を見せる
- ・観光コースづくり
- ・湿原を馬車で走らす
- ・話し合って知恵を出す場が必要 等



## 活動を具体化しよう

活動を誰が、どこで行なうかを考え、年間のアクションプラン（行動計画）を作成し、それに題名（キャッチフレーズ）をつけました。

## 講演会「フットパスは地域と人々を元気にする」を開催しました！！

平成16年2月18日、13:00より、JA豊富町2階会議室において、ワークショップでの議論をより深めるための講演会を行いました。

フットパスとはイギリスにおける、伝統的な「歩く道」のこと。歩くのが大好きなイギリス人は、国土の津々浦々にフットパスを張り巡らせていくそうです。

サロベツの自然や豊富の歴史遺産、農業、温泉などをフットパスでつなぎ、スローな観光を展開していかがでしょうか。

#### 講演者のプロフィール

### 小川 厳 氏 エコネットワーク代表

北海道での自然環境教育や自然を生かした地域づくりの草分け。公職や著書も多数。



## 第6回サロベツ再生構想策定検討会の開催報告

平成16年3月24日、JA豊富町2階会議室において『第6回サロベツ再生構想策定検討会』が開催されました。

サロベツ再生構想策定検討会では、国立公園であるサロベツ湿原と農地が隣接する豊富町において、農業と湿原の共生を図るために「サロベツ再生構想」の策定に係る各種の調査検討の円滑な実施に資することを目的として、学識経験者、農林水産省、環境省、北海道開発局、豊富町などの関係各機関が「農地と湿原の共生に向けた整備構想等」について検討を重ねております。

第6回検討会では、平成14年度から平成15年度に実施した調査の集大成といえる「サロベツ再生構想」の素案となる事務局案が提案され、「湿原の再生」、「農業の再生」、「地域の再生」について、それぞれの目標と具体的方法が示されました。

なお、「サロベツ再生構想」は住民の皆様にも公開し、意見等を広く募集した上で、最終案を取りまとめたいと考えており、次号の本紙(4月中旬発刊予定)にこの構想を掲載しますので、皆さんのご意見等をお待ちしております。

